

—正解のない世界—

昭48年卒 経営 浅田 恭正

私が相談員をしていて一番の喜びを感じるもののひとつは、学生が内定を取って報告に来てくれた時です。一年以上の期間を就職活動に全力を傾け、無事満足のいく企業に内定してその喜びを報告に来てくれた時は我がことのように嬉しく思うとともに、同時に私自身も大きな達成感を味わっています。そしてもう一つは学生たちが未知の世界の就職活動にぶつかっていき、前に進んでいく様子を見ていく中で、彼ら・彼女たちの"成長"を感じる時です。

学生たちは3年生の春から夏にかけて就職活動を開始します。最初はスタートアップセミナーに参加したりネットや就職本を読み、先輩、友達と情報交換をしながら手探りで進めていきます。初めての経験の学生ばかりです。これまでの人生の中での勉強、受験といった経験には明確な指標がありました。それは偏差値や成績といったものです。これは客観的にみて自分に足りないものがどこにあり、どの程度かということが推測でき、目標に到達するために必要とされることやレベル、そして方法もある程度わかります。

つまり誰にでもわかる正解があり、それを目指してやってきたのです。しかし、就職活動には正解が何であるかわかりません。極論すれば正解はないとも言えます。そんな中で就職活動という正解のない世界に初めて踏み込んだ時、何を目標にしてどのように動いていけばよいのかわからないというのがほとんどの学生が感じることです。

そこでまずは身近な先輩や友達、また就職情報会社のセミナー等やネット情報に頼っていきます。でもそこでも正解を示してくれることはありません。先輩の成功体験がそのまま自分にあてはまるかどうかはわからないのです。企業と個人のマッチング活動という就職活動において、企業も個人も違い、その組み合わせが様々である中で、これをすればベストマッチの解を得られる、すなわち内定を取れる、そのための正解はないのです。就活生は最初はこれまでの受験や学業の経験から正解を求めて活動しようとしています。しかし途中から何が正しいのかわからなくなります。そこからまさに未知の領域に踏み出したことへの不安と焦りを感じながら就活を進めていくのです。

就職活動のゴールは自分が思う企業の内定を取ることです。しかしそのためにどんな方法で、どのようなプロセスで進めていけばよいかは一人ひとり違ってきます。

この凌霜誌の1月号と4月号で実際の学生の就活体験記を紹介しました。この二人を見てもその思いやプロセスは違います。一人ひとりの学生の就職活動のプロセスに同じものはありません。千差万別、みんな違います。すべての就活生は

初めて遭遇する経験に悩み、苦しみながら、内定という目標に向かって自分なりの就職活動を自ら考え行動していつているのです。

経済産業省が提唱している「社会人基礎力」というものがあります。それは「考え抜く力」「チームで働く力」そして「前に踏み出す力」の三つです。

社会人として仕事をしていく上で、まずは現状に疑問を持ち、そこに潜む課題を発見し、計画的、創造的また自分独自の解決策を考え抜くことから始めます。そして考え抜いたこれしかないという施策を他者と関わりを築き、チームワークを保ちながら、主体的に前に踏み出していくことが求められます。社会人になればこの基礎力を仕事において様々な経験を経ながら、さらに磨きをかけていくこととなります。

翻って就職活動を見てみると、まさにこの三つの力を試されているといえます。まずは自己分析、企業研究をする中で何故、何故、何故を繰り返し、徹底的に考え抜いていく力が求められます。次のステップでは、自分の考えだけでなく、他者を巻き込み、良いと思ったことを取り入れていくことが重要です。両親、先輩、友達、そして何よりも就職活動の現場にいる企業経験豊富な我々相談員の懐に飛び込んでいってそのアドバイスを吸収して自分のものにする力です。そして最後に自らやるべきことを自分自身で主体的に決断し、一歩前に進む力が求められます。

このような経験を経て勝ち取った内定は何物にも代えがたいものであると同時に、それまでのプロセスで勉強したこと、学んだこと、そして得たことは内定という成果以上に貴重なものです。

就職活動は正にこの社会人基礎力を学ぶプロセスともいえると思います。そんな就職活動に正面から逃げずに取り組み、内定を勝ち取った学生の目はまぶしいほどきらきらと輝いていて、就職活動を始めた頃の学生たちとは違う成長した彼等・彼女達が目の前にいます。

これから踏み出していく社会はこれまでの学生時代とは一味も二味も違います。不条理だと思うこともたくさんあるでしょう。しかし一方で自分をさらに成長させてくれるものが仕事や組織・社会にはあります。逃げず、言い訳せず、自分に与えられた役割と責任を全力で果たしていくことを継続していけばその先にはさらなる成長が待っています。就職活動での経験を活かしてこれからも正解のない世界に挑み続け、さらに大きなビジネスパーソンとして成長していく皆さんをこれからも見守っていきたいと思っています。